

## 恋人の聖地を活用した地域づくり —白山ろく全体で考える—

学生団体名 地域交流研究会（金城大学短期大学部）

参加学生 國本早起、下田愛、榎谷加奈子、井藤理香、古木翔子、他、全12名

### 1. 地域活動の概要

NPO 法人地域活性化支援センターより「恋人の聖地」として認定された「白山温泉郷」。本研究会では、2011年度の活動から、その中心となっているのが一里野温泉にある旅館の方たちです。私たちは、この地域の人たちと「恋人の聖地」の活用についてお話をしてきました。

また、その活動は、白山ろく地域全体を使った婚活プログラムの実施、さらに、もっと多くの方と交わる地域イベントへと広がりを見せていきました。

### 2. 地域活動の具体的な内容

7月24日に、白山市の方々とは婚活イベントについての打ち合わせを行いました。今以上に白山ろくが素敵な場所であることをPRするにはどうしたらよいかについて学生4名が参加し、話し合いました。

8月6日に、「白山ろくの楽しさを見つけに行こう」ということで、研究会メンバー全12名で、そば打ちの体験や教科書にも出ている一向一揆の史跡などを訪れ、白山の魅力についてお聞きしてきました。

10月27-28日に、白山ろく全体での取り組み「白山一斉ふれあい市」に参加しました。このイベントには、地区ごとにどんな鍋を売るかについてのアイデア出しからメンバーに入り、看板等の製作や当日は地元の方たちと一緒に売り子と活動しました。

11月25日に、婚活イベントに学生3名で参加し、白山ろくにある本学施設などを使って、緊張している参加者の緊張をほぐすことができました。



### 3. 地域活動の評価

白山市には、「恋人の聖地」をはじめ「若者がデートする場所」としても、白山ろく地域は十分に魅力的であることが分かりました。私たち自身がそのことを知りませんでしたし、そして活動を通じても少しでも同世代に伝えられたことは評価できると思います。

### 4. 今後、この地域活動を継続、活発にしていくために必要なもの、及び課題

情報の発信はやはり弱いと思います。行ってみたら魅力がよくわかるのですが、行かない限りなかなかその魅力が伝わりません。どのようにしたら若者に情報が伝わるのか、今後の課題です。

### 5. 学生の感想

2年間市内に通い続けても、ほとんど白山ろく地区の実情を知らずに過ごしてきた、もっと関心を持つべきだったと思います。また、地元の人たちの温かさと若者に対する期待を感じ、何かしなきゃいけないという思いになりました。

### 6. 地域からの評価

研究会活動以外でも遊びに来てと誘われ、学校と地域のお付き合いを越えた、個人と個人のお付き合いができそうです。